

南砺まちづくりビジョン

(第2次南砺市総合計画)

(素案)

南砺市 地方創生推進課

目 次

第1章 計画の概要	1
第2章 計画策定における基本的な方針	4
第3章 将来像と目指すべきまちの姿	5
1. 将来像	5
2. 目指すべきまちの姿	6
第4章 南砺市の現状と課題	7
1. 人口ビジョン	7
2. 時代の潮流	9
3. 市を取り巻く状況と課題	11
第5章 財政の見通し	21
第6章 施策の体系	22
1. 施策の体系	22
2. 時代の潮流に即した全分野に関わる4つの視点	23
第7章 南砺まちづくりプラン	24
1. (人づくり) 未来に希望がもてるまち	24
2. (多様性) 多様な幸せを実感できるまち	27
3. (暮らし) 心豊かな暮らしができるまち	29
4. (まちづくり) 皆で考え共に行動するまち	32

第1章 計画の概要

(1) 計画策定の趣旨

南砺市では、2007年（平成19年）3月に南砺市総合計画を策定し、これまで、それぞれの地域において培われた個性や役割を尊重しながら、均衡ある発展や一体感の醸成が進むよう各種施策へ着実に取り組んできました。

その間、2011年（平成23年）には地方自治法の改正により基本構想の策定義務が無くなり、現在では、総合計画の策定や内容については各自治体の裁量に任されています。しかしながら、市の進むべき目標や基本的な方向性を示した計画策定の必要性には変わりはありません。

近年においては、人口減少や少子高齢化の進行、全国的に多発する自然災害の発生、北陸新幹線の開業など、大きな時代の変化や市をとりまく環境の変化がみられます。また、今後のまちづくりには多様な主体との協働が欠かせないことや、PDCAサイクルなど政策評価への意識の高まりといった社会状況の変化も踏まえ、新たな南砺市の目標を明確にするために、第2次南砺市総合計画を策定するものです。

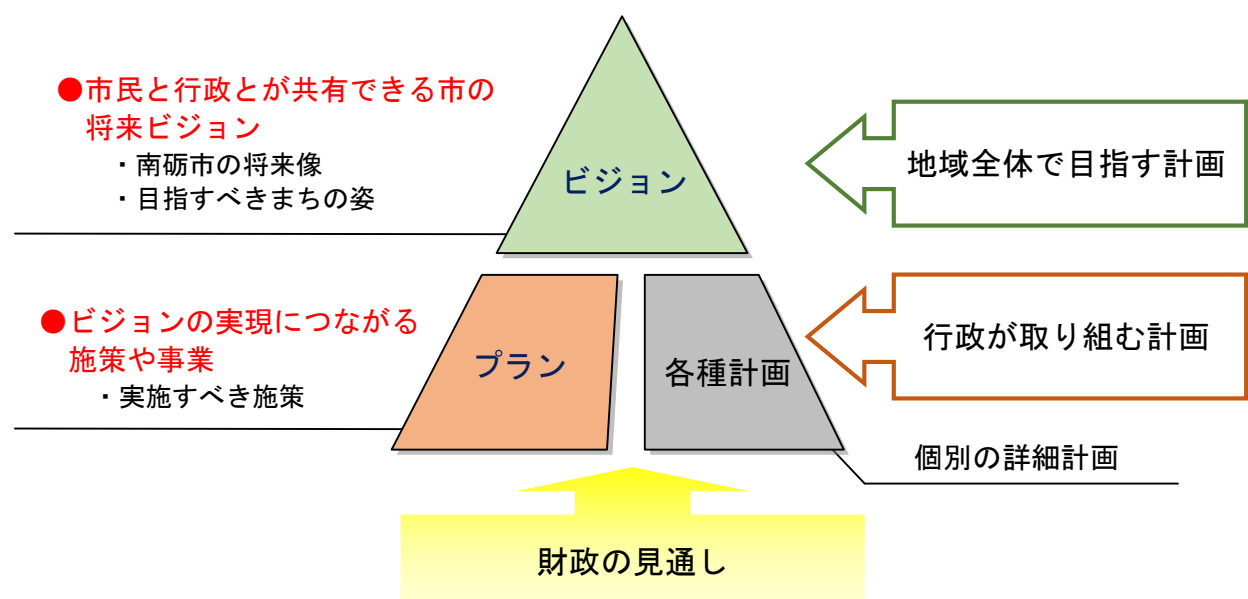
(2) 計画の位置づけ及び構成

南砺市まちづくり基本条例に規定する「まちづくりの主体が市民であること」を踏まえ、市民と行政とが共有できる市の将来像や目標を「南砺まちづくりビジョン（以下、「ビジョン」という。）」と位置づけます。

また、ビジョンを実現するために重点的に取り組む政策や施策を「南砺まちづくりプラン（以下、「プラン」という。）と位置づけます。

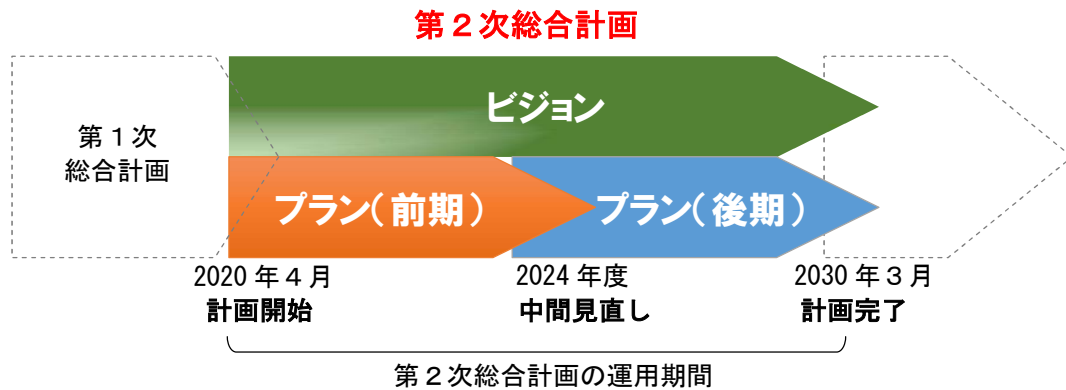
なお、プランに含まれないが行政の役割として欠かすことのできない施策等については、各種計画に委ねるものとし、それらを合わせた総予算の計画的管理・実施については、「財政の見通し」で裏づけることとします。

【第2次南砺市総合計画の構成イメージ】



(3) 計画の期間

第2次南砺市総合計画におけるビジョンの対象期間は、2020年4月から2030年3月までの10年間とします。また、プランの対象期間は、前期計画を今後5年間、後期計画を6年目～10年目とします。

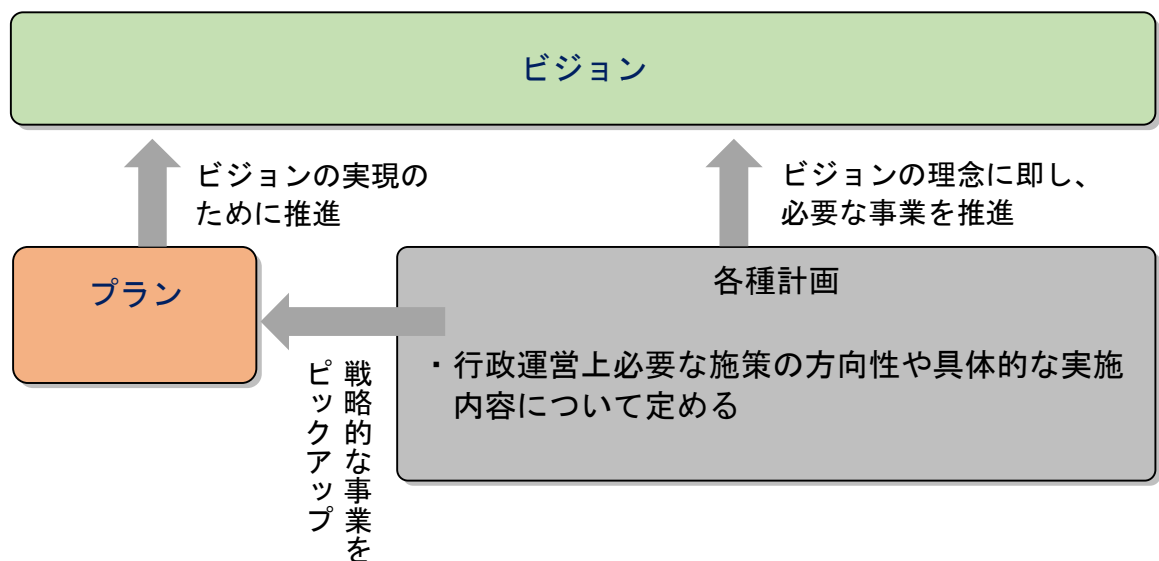


(4) 各種計画との関係

本計画で位置づけるプランは、市民と行政とが共有できる将来像や目標の実現に最も重要な施策を集約したものであり、インフラ整備や防災対策、都市計画など、行政運営上、必ず実施しなければならない施策を全て網羅したものではありません。

そのため、行政運営上必要な施策の方向性や具体的な実施内容については、各種計画に委ねるものとし、それらを総合的に実施・推進していくことで、将来像の実現を目指していくものとします。

【ビジョン・プランと各種計画との関係性イメージ】



○各種計画一覧

■市長政策部

総務課
南砺市地域防災計画
地方創生推進課
南砺市過疎地域自立促進計画
南砺市地域公共交通網形成計画
行革・施設管理課
南砺市公共施設再編計画

■市民協働部

エコビレッジ推進課
南砺市環境基本計画
南砺市エコビレッジ構想
一般廃棄物処理実施計画
南砺で暮らしません課
南砺市男女共同参画推進プラン
南砺市空家等対策計画

■ブランド戦略部

農林課
南砺農業振興地域整備計画
南砺市山村振興計画
南砺市森林整備変更計画（南砺市森づくりプラン）
南砺市鳥獣被害防止計画
南砺市食育推進計画
交流観光まちづくり課
南砺市交流観光まちづくりプラン
文化・世界遺産課
南砺市文化芸術振興基本計画
南砺市文化芸術振興実施計画
南砺市世界遺産マスタープラン

■ふるさと整備部

建設課
南砺市道路整備5箇年計画
南砺市道路施設維持修繕5箇年計画
南砺市消融雪施設整備5箇年計画
南砺市農業農村整備事業管理計画
南砺市田園環境プラン
都市計画課
南砺市公営住宅等長寿命化計画
南砺市住まい・まちづくり計画
南砺市都市計画マスタープラン
南砺市耐震改修促進計画
上下水道課
南砺市水道事業経営戦略
南砺市下水道事業経営戦略
南砺市農業集落排水事業最適整備構想

■教育部

教育総務課
南砺市教育振興基本計画
南砺市いじめ防止基本方針
生涯学習スポーツ課
南砺市子ども読書活動推進計画
南砺市スポーツ推進計画
こども課
子ども・子育て支援事業計画

■地域包括医療ケア部

地域包括ケア課
南砺市高齢者保健福祉計画
福祉課
南砺市地域福祉計画
南砺市障がい者計画
南砺市障がい福祉計画
健康課
南砺市民健康プラン
南砺市地域支えあいのちを守る自殺対策計画

第2章 計画策定における基本的な方針

計画の策定に際して重視した基本的な方針を以下に示します。これらの4つの基本方針のもと、ビジョン及びプランの策定を行いました。

(1) まちづくりの主体は市民であること

ビジョンが、市民と行政とで共有できるまちの将来像となるように、市民の意見を広く集めるとともに、市民と行政職員とが一緒になって、将来像や目指すべき姿などを検討します。

(2) 分かりやすく実効性の高い計画とすること

プランは、ビジョンの実現に有効な施策や事業をまとめた戦略的な計画となるよう、目的と手段という論理的なつながりを持たせながら、目標から政策、政策から施策、施策から事業という方向で検討を進めながら、実効性の高い計画とします。

(3) 段階的に目標となる指標を設定すること

市民と行政が目標を共有しやすくなるよう、ビジョンでの到達目標、施策における到達目標など段階的な到達目標を明確にするため、指標と目標値を設定します。

なお、設定に当たっては、根拠やデータ、客観的な証拠を用いることで、その指標や目標の妥当性を高めます。

(4) PDCAサイクルにより常に見直すこと

プランの実行性を高めるため、地方版総合戦略で得た経験を生かし、毎年度、PDCAサイクルによる評価や見直しを行います。

評価は、常に上位指標が向上（改善）することを重視し、上位指標に対して効果があったかどうかを検証し、より良い状態となるよう施策や事業の方向性や内容を見直します。

第3章 将来像と目指すべきまちの姿

1. 将来像

誰ひとり取り残さない 誰からも選ばれるまち 南砺へ

田園が湖面のごとくきらめく春、熱い鼓動に包まれる夏、哀愁の調べが彩る実りの秋、一面の雪景色に温もりが感じられる冬と、南砺市では、四季を通じて人と自然が調和し、悠久の時間が流れています。

わたしたちの南砺市には、豊かな自然の恵みをいただき、大自然に感謝する心や相手を思いやる「お互い様」の気質といった独自の精神がずっと息づいています。世界が認める合掌造り集落をはじめ、散居景観や伝統芸能、祭、食、ものづくり産業など、かけがえのない財産が数多く育まれています。

また、南砺市で暮らす人々は、奥ゆかしく、温かみがあり、忍耐強く、何事にも意欲に富んでおり、ここに生きる人そのものが、未来へとつないでいかねばならない私たちのかけがえのない財産です。

その一方で、少子高齢化や社会環境の変化など、南砺市を取り巻く様々なことが変わりつつある中、これらの財産を後世へと継承していくためには、市民一人ひとりの強い思いとたゆまぬ努力により、積極的に守り育てていくことが不可欠です。特に、自然との共生や環境への意識が高まる中で、人と人、人と自然の関係を見つめ直し、地域資源を最大限に活用した循環型社会を構築する重要性は増すばかりです。

さらに、情報通信や人工知能（AI）などの技術進歩により、働き方や生き方、価値観などは大きく変わろうとしています。今の暮らしをより快適にしたい、場所を選ばず仕事がしたい、住むところを自分のスタイルで選びたいといった、人それぞれが求める多様な幸せのカタチを実現できる社会を築いていかねばなりません。

このような社会の流れの中で本市が目指すのは、ここに暮らす人が多様な価値観を互いに認め合い、それぞれが幸せを感じ、「生まれてきてよかった」「住んでいてよかった」「これから住み続けたい」と思えるまちであり、同時に市外の人に「共に育ちたい」「住みたい」「つながりたい」場所として選ばれるまちです。

これからの10年間は、目指す将来像に向かい市民一丸となって、覚悟をもって取り組まなければならない極めて大切な時期です。自然や伝統、文化といった世界に誇れる財産を活かし、市民一人ひとりが互いに認め、支え合いながら行動していくことが必要です。「南砺」に暮らす私たちが、この土地の豊さや暮らしに感謝と誇りを持ち、互いを信頼し、誰一人取り残さない地域社会である「一流の田舎」を将来像とし、次代を担う子どもたちが笑顔で暮らし続けられる、そんな南砺市を目指します。

2. 目指すべきまちの姿

人づくり 未来に希望がもてるまち

子どもは家族にとって大切な宝であり、子どもが夢や希望を持ち、それを実現するよう成長していく姿は、家族だけでなく地域にとっても大きな希望となります。結婚したい、子どもが欲しいと願う市民が希望をかなえ、南砺に育つ子どもが未来に希望を持てるような地域をつくるために、子どもたちに対する教育の充実や子育て環境の充実を図り、南砺に生まれて良かった、南砺で育ちたいと思える、希望に満ち溢れた地域づくりを進めます。

多様性 多様な幸せを実感できるまち

地域に愛着を持ち、互いに尊重し合い、安心とやすらぎを感じて生活していくことができ、「いつまでも、南砺で暮らしていきたい」と一人でも多くの人に思ってもらえるよう、福祉や医療の充実を図ります。また、年齢も性別も、国籍も関係なく、多様性を認め合う社会の構築を図り、自身の人生を振り返ったときに「このまちに住んでいてよかった」と思えるような地域の実現を目指します。

暮らし 心豊かな暮らしができるまち

地域活動を支え、まちの賑わいを創出し、次代の子どもを育むのは、「人」の存在が不可欠であり、人材の流出は、地域にとって大きなマイナスとなります。そのため、積極的な定住促進に取り組むとともに、市外への転出抑制を図るために、都市基盤の充実や、産業の発展、便利で安全、そして活力あふれる、南砺市を選んでもらうための都市の魅力の創出を図っていきます。

まちづくり 皆で考え共に行動するまち

まちづくりは、行政のみで完結するものではなく、そこに暮らす住民一人ひとりの気持ちや行動が集まってできるものです。そのため、地域への愛着や誇りの醸成、地域づくりを担う人材の育成とともに、情報の共有やコミュニケーションの充実、参加したくなるまちづくり方策を進め、市民と行政の協働による、開かれた、共に考え、行動していくまちづくりを推進します。

第4章 南砺市の現状と課題

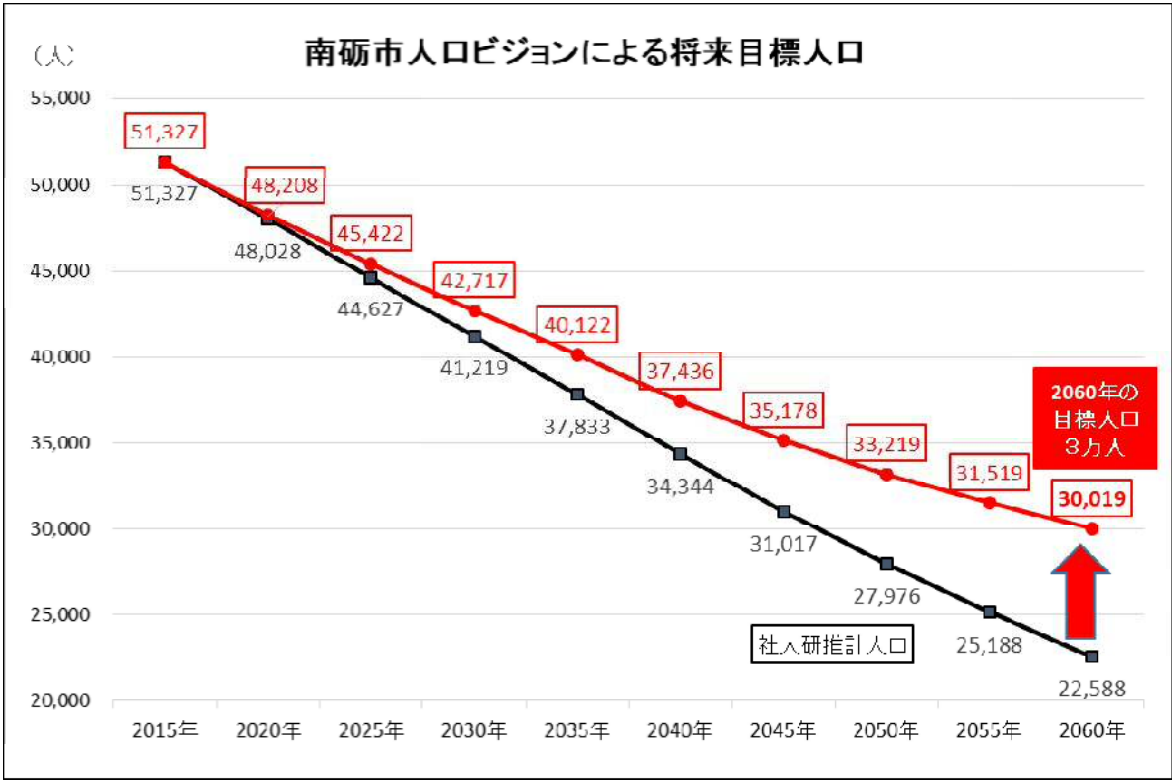
1. 人口ビジョン

(1) 南砺市人口にビジョンにおける将来目標人口

2015年に策定した南砺市人口ビジョンの目標人口は、2060年に30,000人とし、目標を達成するために、「合計特殊出生率の向上」と「社会動態（転入者数の増加、転出者の抑制）の改善」を重点的に実施してきました。

これまで、転入者数の増加という成果が表れてきているものの、転出者の抑制に歯止めがかからず、出産・子育て世代となる20代～30代の減少が大きくなっており、2020年現在目標人口を下回る状況となっています。

全国的にも、出生数の低迷（統計開始以来初の年間出生数90万人割れ 国人口動態推計12月下旬公表予定）、首都圏を中心とした都市部への人口の集中により、本市の人口動態において厳しい状況が続きますが、これまでの取組により成果が現れてきている「充実した子育て環境の提供」、「移住先としての高い評価」などの本市の強みを活かした施策の推進に取り組むことで、2060年の将来目標人口30,000人の実現を目指します。

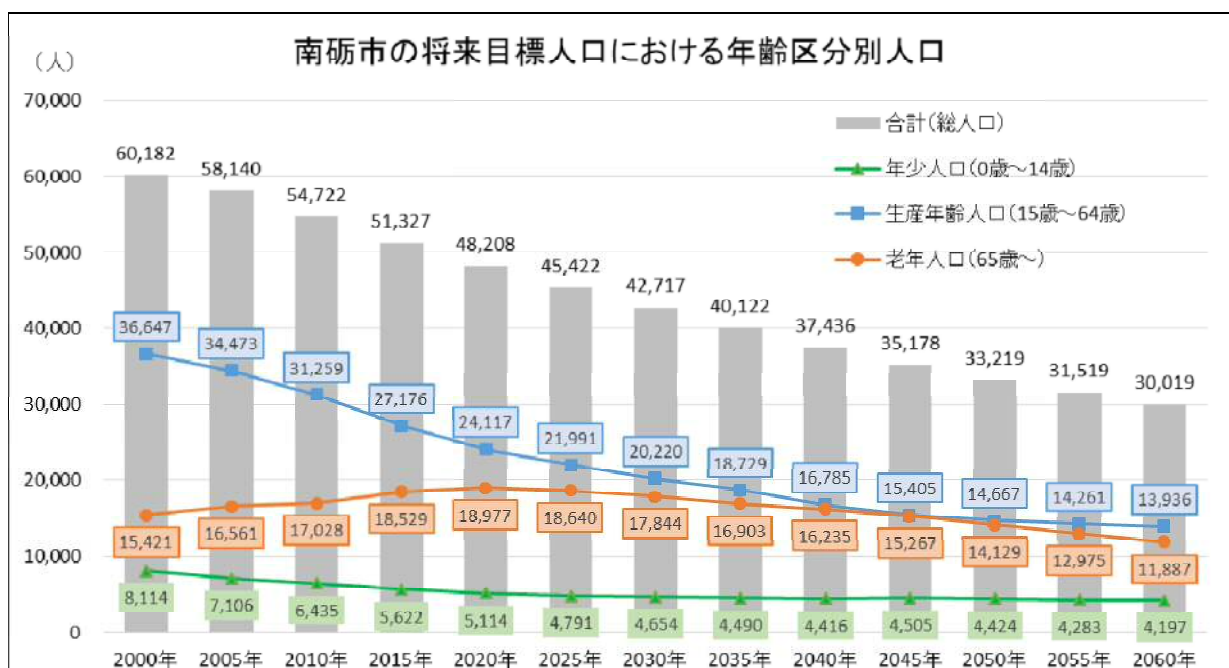


区分	基準人口	出生	死亡	社会移動
人口ビジョン 2060年 30,019人	2015年 国勢調査	2035年 1.94 2040年以降 2.07	社人研生存率に、施策による生存率の向上を反映	2010年～2015年の社会移動状況からの推計値に、現人口ビジョンによる施策効果を加えたもの ※社会増減の均衡 2045年～
社人研推計 2060年 22,588人	2015年 国勢調査	2060年まで1.47 (成り行き値)	社人研生存率	2010年～2015年の社会移動状況からの推計値 ※2060年まで、社会増減が均衡することはない。

(2) 年齢区分別人口

南砺市人口にビジョンに基づいて、2060年までの年齢3区分別の目標人口を次のとおり設定します。

区分	2015年 国勢調査 人口	南砺市人口ビジョンでの将来人口				
	2015年	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年
年少人口(0歳～14歳)	5,622人	5,114人	4,654人	4,416人	4,424人	4,197人
生産年齢人口(15歳～64歳)	27,176人	24,117人	20,220人	16,785人	14,667人	13,936人
老年人口(65歳～)	18,529人	18,977人	17,844人	16,235人	14,129人	11,887人
合計(総人口)	51,327人	48,208人	42,717人	37,436人	33,219人	30,019人



2. 時代の潮流

(1) SDGs（持続可能な開発目標）

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されており、日本では2016年12月に「SDGs実施指針」を決定し、「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」というビジョンを掲げています。

このビジョンを受け、日本各地の自治体においても、総合計画などの各自自治体の方針に積極的にこの考え方を取り入れる動きが進んでいます。

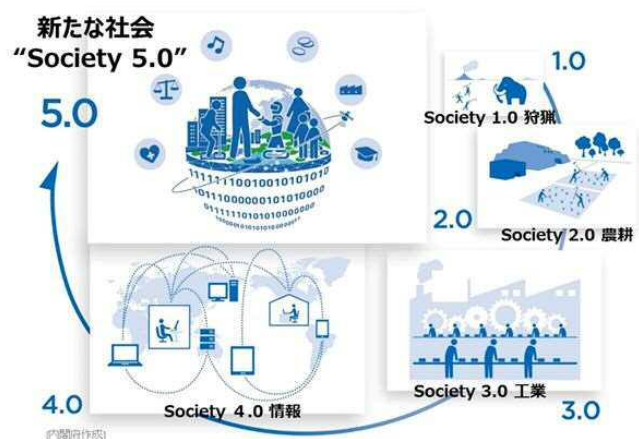


(2) Society5.0

狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く、新たな社会を指すもので、2016年1月に閣議決定された「第5期科学技術基本計画」（2016～2020年）において我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されました。

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）を目指すものとして、IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すとともに、人工知能（AI）により、情報の必要時における提供や、ロボットや自動走行車などの技術による少子高齢化・地方の過疎化・貧富の格差などの課題を克服しようとするものです。

本市においても、これらの技術を積極的に取り入れ、さらなる少子高齢化や人口減少に備えていくことが必要となります。



(3) 小規模多機能自治への取り組み

社会が求める行政サービスが複雑化、多様化する中で、従来型の一律平等な公共サービスの提供に限界が生じつつあり、それに伴い、公共サービスの提供にも多様な主体による参加・協力が必要とされるようになりつつあります。そのような中、住民の積極的な参画・協働によって様々な機能をもつ自治の仕組みとして「小規模多機能自治」という考え方が生まれてきました。

本市は、2012年7月に施行された南砺市まちづくり基本条例では、わたしたちが、このまちに「生まれてきてよかった」、「住んでいてよかった」、「これからも住み続けたい」と思えるまちになることを願い、市民一人ひとりが市政に参画して、市民が主体となって協働でまちづくりを進めることを定めています。また、これを実現するためには、自治振興会等を中心とした住民自治組織の自主性や自立性が期待されています。

そのような中、市自治振興会連合会と市では、地域を持続させるための手法の一つとして、全国的に広がりを見せている「小規模多機能自治」の手法を用いた課題解決型の組織への移行に積極的に取り組んでおり、今後、これらの取組が地域にしっかりと根付くよう、継続的に支援することとしています。

(4) 地域のストック資産の活用

8町村が合併して誕生した本市は、旧町村単位で建設した公共施設を数多く引き継いでいますが、人口が減少していく中にあることは、すべての公共施設を維持していくことはできません。

2016年に策定された「第2次南砺市公共施設再編計画」では、南砺市公共施設等総合管理計画における財政シミュレーションとして、今後30年間で公共施設面積を約50%縮減しなければ現在の行政サービスの水準を維持することができないとの試算結果も得られています。

今後のさらなる人口減少や税収の減少等を見据え、必要な行政サービスを維持していくためには、“身の丈に合った”公共施設の量を見据え、適正に統廃合を行っていくとともに、見直しにより生まれる不要施設は単に取り壊すだけでなく、市の「未来」を創っていく貴重な資産として、積極的に利用の転換を図っていくことが必要です。

また、地域のストック資産である空き家や空き地についても、積極的な利活用を図っていくことが求められます。

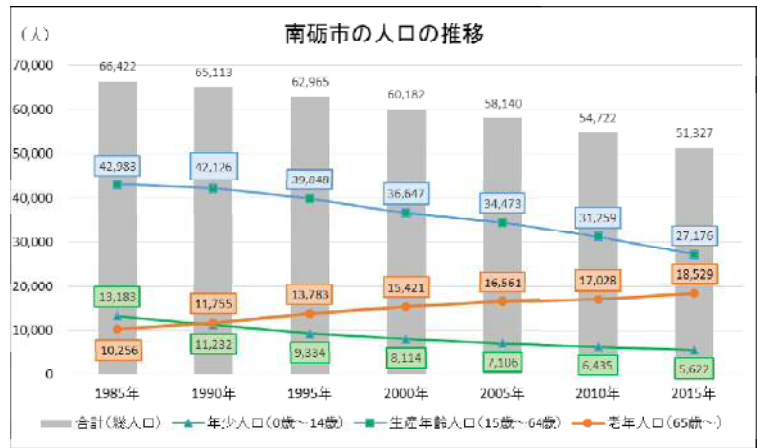
今後、公共施設については、今ある施設の有効活用を図り、原則として新規施設の建設を抑制し、民間へと施設を譲渡するなど、地域活性化に向けて可能な限り施設の有効活用に努めるとともに、空き家や空き地の発生抑制と有効活用を図っていくことが必要です。

3. 市を取り巻く状況と課題

(1) 南砺市の統計指標

①人口の推移

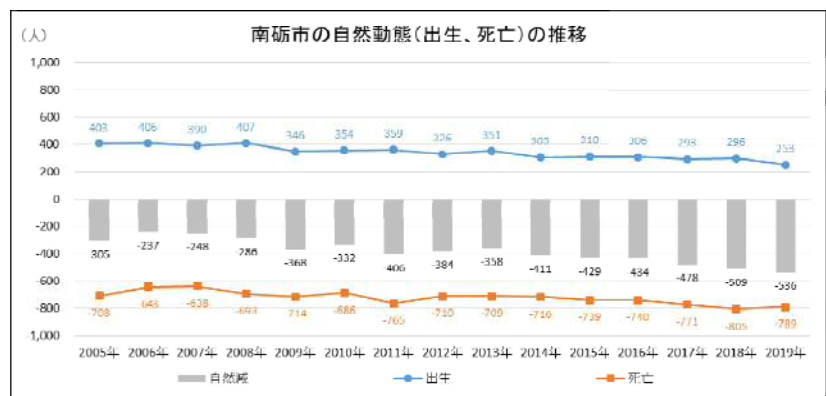
南砺市の人口は減少が続いており、直近の国勢調査（2015 年）で 51,327 人にまで減少しています。年齢（3 区分）別にみると、年少人口（0 歳～14 歳）及び生産年齢人口（15 歳～64 歳）は年々減少している一方、老年人口（65 歳以上）は増加傾向にあり、2015 年現在の高齢化率は 36.1%となっています。



出典：国勢調査

②自然動態（出生数・死亡数）の推移

自然増減は 2005 年以降、常に死亡が出生を上回っており、自然減（出生－死亡）により、近年は毎年 400 人以上の人口が減少しています。



出典：富山県人口移動調査

③社会動態（転入数・転出数）の推移

社会増減は 2005 年以降、ほぼ転出超過となっています。近年は 150～300 人程度の転出超過が続いています。



出典：富山県人口移動調査

④社会動態の年齢別内訳（H27）

直近の社会変動は 233 人の転出超過であり、特に 15～34 歳までの転出超過が 213 人とほとんどを占めています。



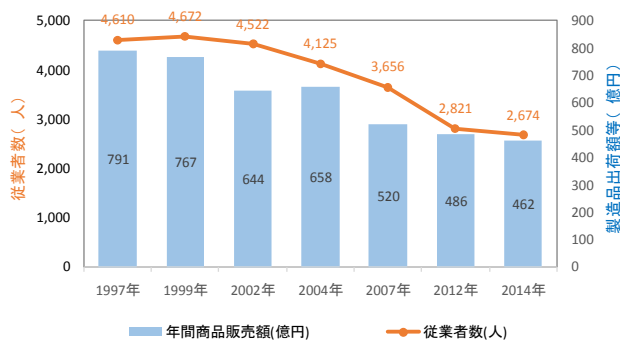
出典：住民基本台帳より作成

⑤商業・工業の推移

商業については、従業者数や販売額は減少が続いています。

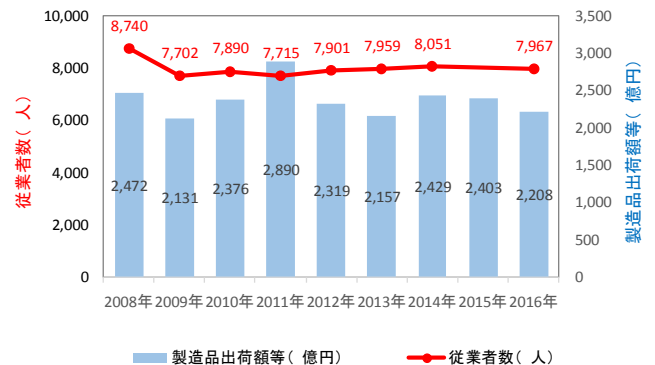
工業については、従業員数は 2008 年から横ばい、製造品出荷額等もほぼ横ばいで推移しています。

【南砺市の商業の推移】



出典：商業統計

【南砺市の工業の推移】

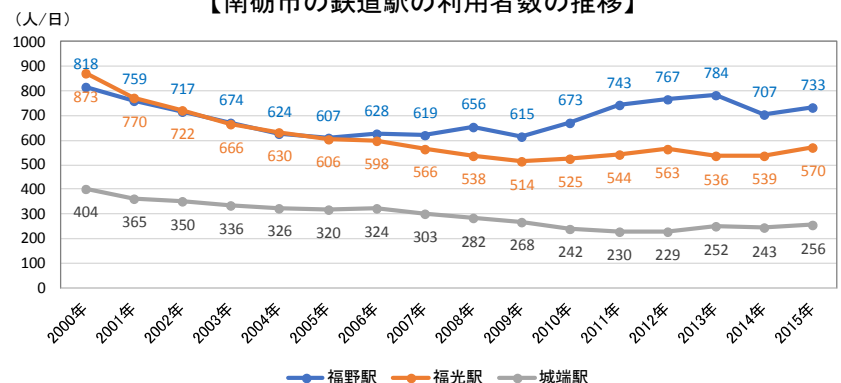


出典：工業統計

⑥公共交通（鉄道）の利用数の推移

鉄道の利用者数は、福野駅はやや増加傾向にあり、福光駅や城端駅は 2009 年頃までは減少していましたが、近年は横ばい傾向にあります。

【南砺市の鉄道駅の利用者数の推移】



(2) 第1次総合計画の成果と課題

①計画の進捗状況・改善状況の考え方

現行の南砺市総合計画基本計画では、176 の成果指標を設定し、その達成率により施策や事業の進捗管理を行っています。

計画期間の最終年度である令和元年度の目標値に対し、基準年である平成27年度の実績値、中間年度で最もデータの新しい平成30年度の実績値を比較した、総合計画の平成27年から平成30年度までの進捗率（達成率）および改善率を以下に示します。

※進捗（達成）率＝直近の実績値（H30）／計画最終の目標値（R1）

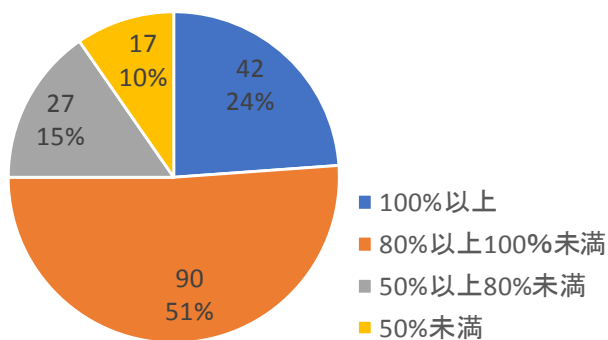
※改善率＝{直近の実績値（H30）－計画基準年の実績値（H27）}
／{計画最終の目標値（R1）－計画基準年の実績値（H27）}

②全体の進捗状況

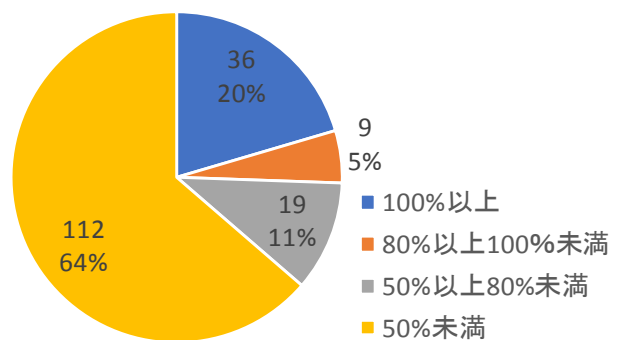
進捗率でみた場合、中間年の平成30年度で目標値を既に達成した指標（進捗率100%以上のもの）が全体（176指標）の24%となっています。このほかに進捗率が順調に伸び、目標達成間近の指標（80%以上100%未満）のものを勘案すると、概ね3/4の指標において、達成が見込まれる状況にあります。一方で、進捗が思わしくないもの（50%未満）も10%程度となっています。

一方、改善率で見た場合、半数以上の64%の指標で50%未満の達成状況となっています。

【進捗率の区分別指標数（構成比）】



【改善率の区分別指標数（構成比）】



③進捗率や改善率の高い分野と低い分野

進捗率が高い分野として、“美しく住みよいまち”の指標が多く達成している状況となっています。

また、改善率が高い分野として、「消防・防災体制の充実」、「雇用の確保と就業環境の充実」、「市民と行政の協働のまちづくりの推進」などが挙げられます。

【進捗率（施策区分ごと）】

施策区分	進捗率が80%以上の割合
美しく住みよいまち	84%
111自然環境の保全と活用	83%
112エコビレッジ構想による持続可能な社会の構築	71%
113適正な土地利用の推進	100%
121道路網の整備と公共交通環境の充実	100%
122消防・防災体制の充実	83%
123交通安全・防犯対策の推進	100%
124雪に強いまちづくりの推進	80%
125快適な住環境づくりの推進	100%
126地域と調和した景観づくりの推進	67%
127快適な暮らしを支える上下水道の整備	100%
128安心して暮らせる環境衛生対策の充実	100%
131ともに支えあう地域福祉の推進	100%
132障がい者への支援体制の充実	50%
133高齢者福祉のサービス充実	67%
134こころとからだの健康づくりの推進	60%
135安心できる医療の確保	33%
136生活を支える社会保障制度の適正な確保	100%
137子育て家庭への切れ目ない総合的な支援	100%
138子どもを育てやすい環境づくりの推進	100%
創造的で元気なまち	69%
211学校教育環境づくりの推進	57%
212生涯にわたり学べる環境づくりの推進	25%
213生涯にわたりスポーツに親しむ環境づくりの推進	100%
214文化芸術創造都市の振興	80%
215文化財の保存・活用と伝統文化の継承	50%
221農業の振興と農村の活性化	100%
222林業の振興と山村の活性化	43%
223商業の賑わいづくりと伝統産業の活性化	86%
224豊富な地域資源を活かした観光の振興	100%
225工業の振興と企業誘致、新産業の創出	67%
226雇用の確保と就業環境の充実	57%
227移住・定住対策の推進	50%
228国際・国内交流の推進	75%
開かれたふれあいのまち	69%
311市民と行政の協働のまちづくりの推進	80%
312自ら考え行動するコミュニティ活動への支援	83%
313地域社会を支えるボランティア活動の推進	67%
314人権が尊重される社会と男女共同参画の推進	50%
321情報を自由に活用できる社会の構築	75%
322効果的で効率的な行政経営	40%
323計画的で健全な財政運営	80%
総計	75%

青：全ての指標において、平成30年度での進捗率80%以上となっている施策分野

【改善率（施策区分ごと）】

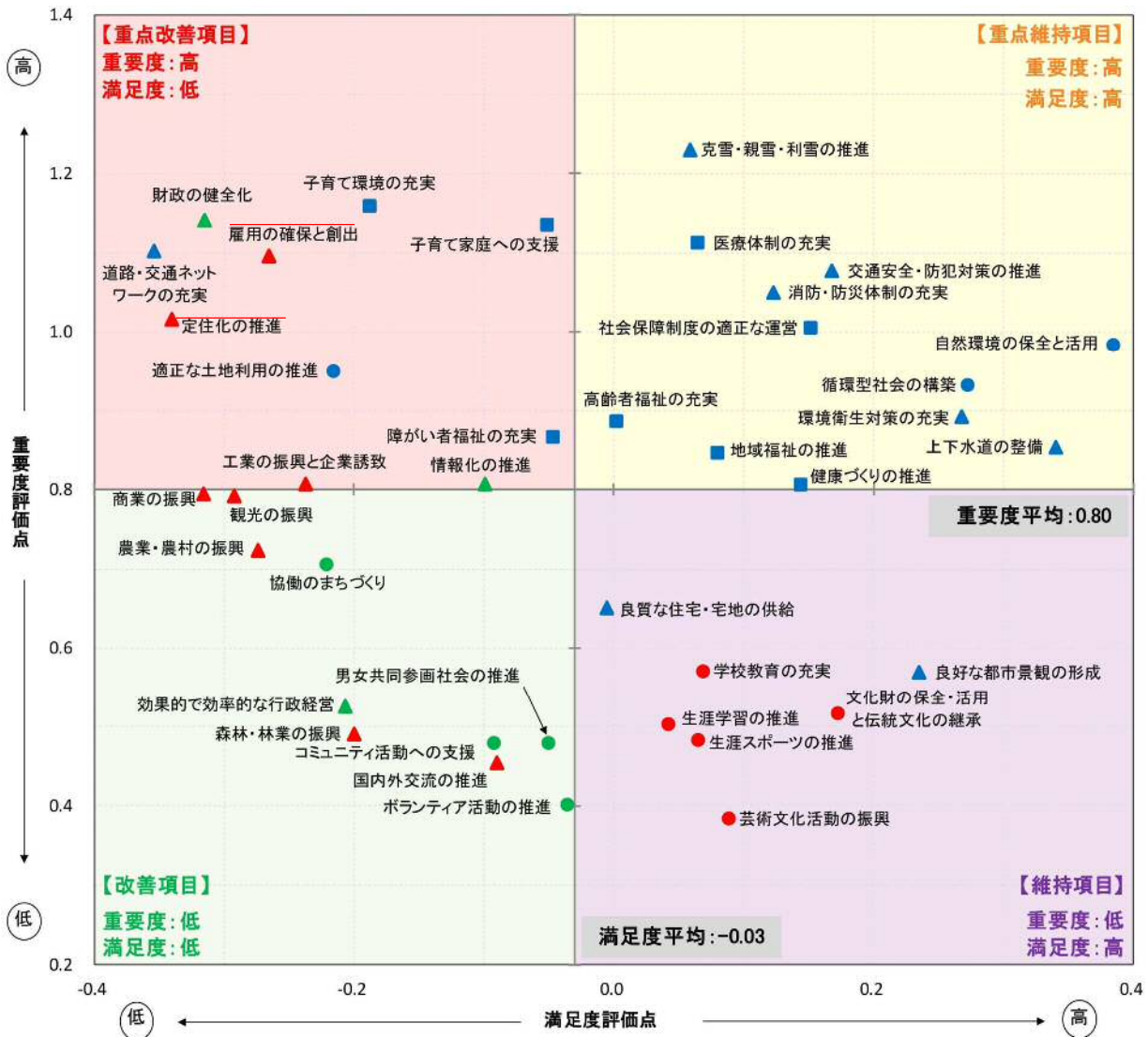
施策区分	進捗率の割合	
	50%未満	90%以上
美しく住みよいまち	60%	22%
111自然環境の保全と活用	67%	33%
112エコビレッジ構想による持続可能な社会の構築	14%	29%
113適正な土地利用の推進	100%	0%
121道路網の整備と公共交通環境の充実	75%	0%
122消防・防災体制の充実	33%	67%
123交通安全・防犯対策の推進	75%	0%
124雪に強いまちづくりの推進	80%	0%
125快適な住環境づくりの推進	33%	33%
126地域と調和した景観づくりの推進	67%	33%
127快適な暮らしを支える上下水道の整備	25%	25%
128安心して暮らせる環境衛生対策の充実	100%	0%
131ともに支えあう地域福祉の推進	100%	0%
132障がい者への支援体制の充実	50%	50%
133高齢者福祉のサービス充実	67%	33%
134こころとからだの健康づくりの推進	80%	20%
135安心できる医療の確保	67%	0%
136生活を支える社会保障制度の適正な確保	50%	50%
137子育て家庭への切れ目ない総合的な支援	75%	0%
138子どもを育てやすい環境づくりの推進	60%	20%
創造的で元気なまち	65%	27%
211学校教育環境づくりの推進	86%	14%
212生涯にわたり学べる環境づくりの推進	100%	0%
213生涯にわたりスポーツに親しむ環境づくりの推進	100%	0%
214文化芸術創造都市の振興	60%	20%
215文化財の保存・活用と伝統文化の継承	100%	0%
221農業の振興と農村の活性化	60%	30%
222林業の振興と山村の活性化	71%	14%
223商業の賑わいづくりと伝統産業の活性化	71%	29%
224豊富な地域資源を活かした観光の振興	50%	50%
225工業の振興と企業誘致、新産業の創出	67%	33%
226雇用の確保と就業環境の充実	14%	57%
227移住・定住対策の推進	75%	25%
228国際・国内交流の推進	25%	50%
開かれたふれあいのまち	69%	19%
311市民と行政の協働のまちづくりの推進	40%	60%
312自ら考え行動するコミュニティ活動への支援	67%	17%
313地域社会を支えるボランティア活動の推進	100%	0%
314人権が尊重される社会と男女共同参画の推進	75%	25%
321情報を自由に活用できる社会の構築	75%	0%
322効果的で効率的な行政経営	80%	0%
323計画的で健全な財政運営	60%	20%
総計	64%	23%

青：平成27年度から平成30年度までの改善率90%以上の指標が半数以上ある施策分野
 オレンジ：平成27年度から平成30年度までの改善率50%未満の指標が半数以上ある施策分野

(3) 市民意識

① 施策の重要度・満足度による分布

「健やかなやすらぎのまちづくり」においては、重要度・満足度がどちらも比較的高い傾向にある一方で、「いきいきとした活力あるまちづくり」は全体的に満足度が低く、特に「定住化の促進」「雇用の確保と創出」は重要度が高い一方で満足度が低くなっており、今後、重点的に取り組むべき施策と言えます。



美しく住みよいまち

- : 自然に優しい住みよいまちづくり
- ▲: 安全で快適なまちづくり
- : 健やかなやすらぎのまちづくり

創造的で元気なまち

- : 心豊かで創造的なまちづくり
- ▲: いきいきとした活力あるまちづくり

開かれたふれあいのまち

- : 交流と調和のまちづくり
- ▲: 健全で開かれたまちづくり

②年齢別の重要度・満足度

重要度については、ほとんどの年代で「雪が降っても安心して暮らせるようにする（克雪・親雪・利雪の推進）」が最も重要度が高くなっています。

一方、満足度については、「道路やバスを使いやすくする（道路・交通ネットワークの充実）」が30代以下、40・50代、70代以上で評価が低くなっています。

年代	重要度(ベスト3)			満足度(ワースト3)		
	1位	2位	3位	1位	2位	3位
30代以下	雪が降っても安心して暮らせるようにする	働きながら子育てができるようにする	道路やバスを使いやすくする	道路やバスを使いやすくする	Uターンや移住してくる人をふやす	市のお金を上手にやりくりする
	1.36(+0.13)	1.29(+0.13)	1.22(+0.08)	-0.37(-0.02)	-0.25(+0.09)	-0.24(+0.08)
40、50代	雪が降っても安心して暮らせるようにする	道路やバスを使いやすくする	市のお金を上手にやりくりする	道路やバスを使いやすくする	商売をさかんにする	Uターンや移住してくる人をふやす
	1.26(+0.03)	1.16(+0.00)	1.16(+0.02)	-0.44(-0.09)	-0.38(-0.04)	-0.33(-0.01)
60代	雪が降っても安心して暮らせるようにする	安心して子どもを産めるようにする	市のお金を上手にやりくりする	農業で稼げるようにする	Uターンや移住してくる人をふやす	市のお金を上手にやりくりする
	1.21(-0.02)	1.17(+0.02)	1.15(+0.01)	-0.39(-0.04)	-0.39(-0.05)	-0.38(-0.06)
70歳以上	安心して子どもを産めるようにする	雪が降っても安心して暮らせるようにする	市のお金を上手にやりくりする	Uターンや移住してくる人をふやす	商売をさかんにする	市のお金を上手にやりくりする
	1.10(-0.13)	1.07(-0.09)	1.07(-0.07)	-0.38(-0.03)	-0.31(+0.03)	-0.30(+0.02)
総計	雪が降っても安心して暮らせるようにする	安心して子どもを産めるようにする	市のお金を上手にやりくりする	道路やバスを使いやすくする	Uターンや移住してくる人をふやす	商売をさかんにする
	1.23	1.16	1.14	-0.35	-0.34	-0.32

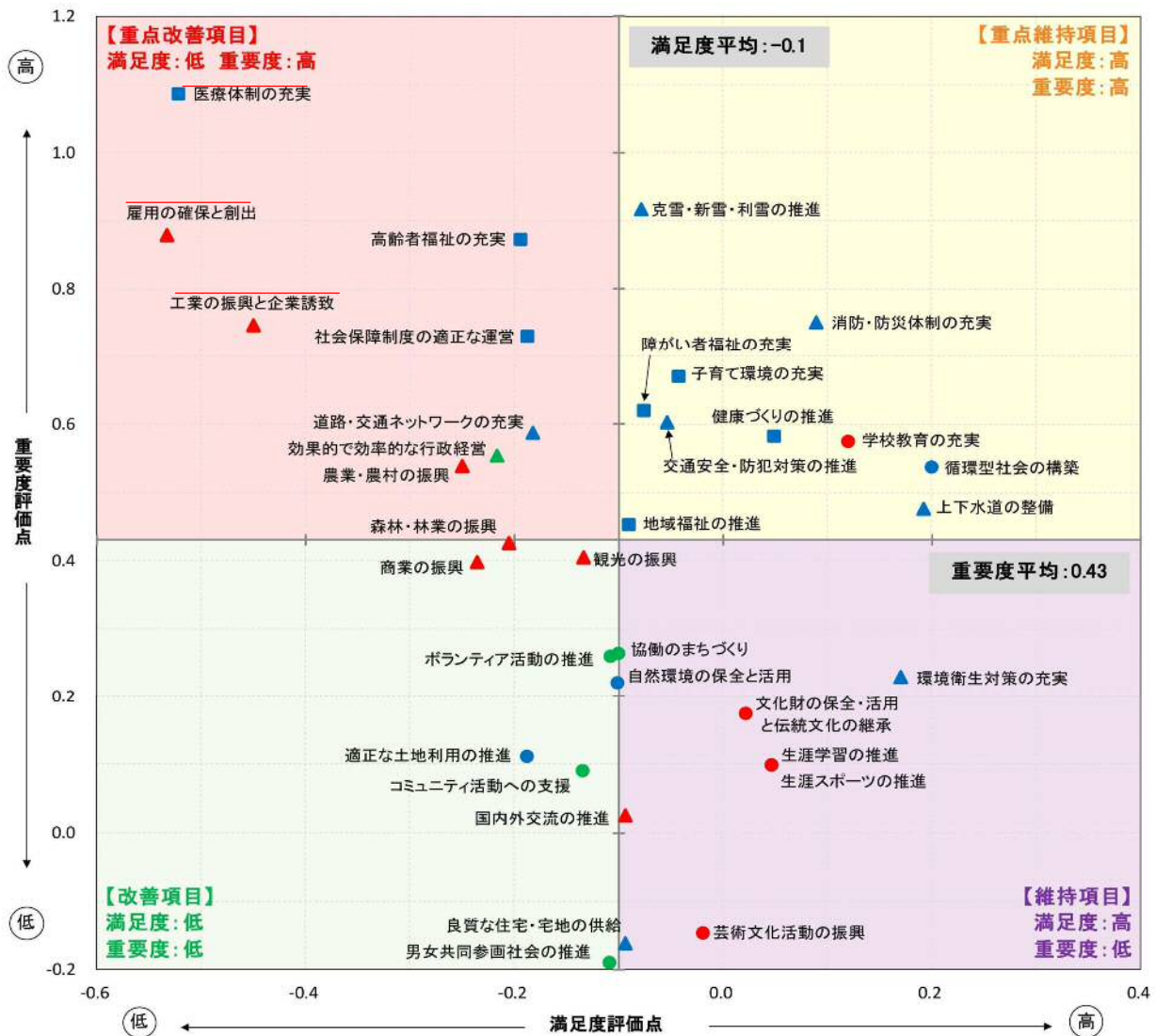
※重要度・満足度の算出について

重要度 大変重要：+2点、やや重要：+1点、今と同じくらい：0点、あまり重要でない：-1点、重要でない：-2点

満足度 満足：+2点、概ね満足：+1点、普通：0点、少し不満：-1点、不満：-2点

③過去の重要度・満足度による分布

平成22年に実施した市民アンケートでは、「医療体制の充実」「雇用の確保と創出」「工業の振興と企業誘致」などが、重要度が高い一方で満足度が低くなっていた項目となっており、特に「雇用の確保と創出」は今回の市民アンケートでも同様の傾向となっており、今後においても改善を図っていく重要な項目と言えます。



美しく住みよいまち

- : 自然に優しい住みよいまちづくり
- ▲ : 安全で快適なまちづくり
- : 健やかなやすらぎのまちづくり

創造的で元気なまち

- : 心豊かで創造的なまちづくり
- ▲ : いきいきとした活力あるまちづくり

開かれたふれあいのまち

- : 交流と調和のまちづくり
- ▲ : 健全で開かれたまちづくり

(4) 南砺幸せなまちづくり創生総合戦略の総括 (H27～R元)

①心豊かな「結」と「土徳」のまち創造 (心豊かで安心して暮らすことができる社会を実現する)

基本目標	施策・主な事業	主な成果
婚姻数を増やす 目標：年間 300 件 当初 267 件 ⇒ <u>現状 201 件</u>	【結婚・出産・子育て・教育の支援】 ●若者の結婚活動を支援 ・あなたと私を結ぶ赤い糸プロジェクト ・婚活応援団なんとおせっ会プロジェクト ●妊娠、出産、子育てに切れ目のない総合的な支援 ・南砺市型「ネウボラ」推進事業 ・子育て応援制度	・婚活カップル成婚：170 組（うち市内在住 120 組） ・成婚カップルからの出生：81 人 ・不妊治療からの出生：4 年間で 103 人 ・ネウボラ事業で対応した相談件数：4 年間で 14,332 件
出生数を増やす 目標：年間 300 人以上 当初 305 人 ⇒ <u>現状 289 人</u>		・通所型サービス B 型開設：4 年間で 6 地区 ・育成した介護人材：5 年間で 60 人（研修受講者数） ・特定健診受診率：62.9% (H29 県内 1 位) ・特定保健指導実施率：67.3% (H29 県内 1 位)
健康寿命を延ばす 目標：男女とも 1 歳延ばす (男性) 当初 77.97 歳 ⇒ <u>現状 79.55 歳</u> (女性) 当初 82.97 歳 ⇒ <u>現状 83.56 歳</u>	【地域共助の確立】 ●高齢者を地域全体で見守る体制づくりを支援 ・介護予防・日常生活支援活動拠点施設改修及び備品等整備事業 ・介護人材育成タウンなんと ●平均寿命と健康寿命 ・「あなたのからだをナビゲート」事業	

②多様な仕事を育む地域課題解決のまち創造 (「やりたいこと」が「できる」地域を実現する)

基本目標	施策・主な事業	主な成果
若者、女性の就業率を伸ばす 目標 75.5% 当初 73.6% ⇒ <u>現状 75.8%</u>	【若者と女性がいいきと輝いて活躍できる環境の整備】 ●起業・コミュニティビジネス支援と就業支援 ・奨学金を活用した大学生等の地方定着促進事業 ・起業家育成支援事業	・起業家支援制度を活用した起業数：4 年間で 37 件 ・女性起業セミナー受講者数：3 年間で 86 人
新規起業数を増やす 目標 5 年間で 100 件 当初 15 件 ⇒ <u>現状 125 件</u>	【中小企業活性化、創造型産業構築】 ●南砺版エコノミックガーデニングの構築 ・南砺市まちづくりファンド ・企業立地奨励事業小規模事業者応援制度 ●クリエイターの集積による新たな魅力の支援 ・クリエイター育成マッチング事業	・企業立地奨励事業〔投下固定資産額〕4 年間で 35.3 億円 ・〔雇用創出〕4 年間で 41 人 ・クリエイタープラザ入居者：59 人（移住者）
南砺ブランド商品年間販売額を増やす 目標：年間 20 億円 当初 18.2 億円 ⇒ <u>現状 17.1 億円</u>	【地域の伝統資源の活用、ブランド商品開発】 ●五箇山 & 南砺ブランド商品の開発と販売促進 ・南砺ブランド商品開発支援 ●職人育成と伝統工芸の維持 ・伝統的工芸品後継者育成支援事業 ・新規就農支援事業の実施	・新規就農支援事業による新規営農者数：4 年間で 7 人、うち移住者 5 人 ・伝統的工芸品後継者育成奨励金受給者数：4 年間で 26 人、うち移住者 5 人 ・南砺ブランド商品：首都圏への販路拡大への取組

③南砺版エコビレッジによる新しいライフスタイルのまち創造

(地域資源を活用・循環させワクワクする「懐かしい未来」を実現する)

基本目標	施策・主な事業	主な成果
自治会町内会行事に参加している市民の割合を伸ばす 目標 80.0% 当初 78.2% ⇒現状 75.6%	【地域コミュニティの堅持】 ●コミュニティビジネスの支援と笑顔あふれる豊かな地域の創造 ・総合型自治振興会強化プラン ・なんと市民開催 まちづくり塾支援事業	・地域づくり協議会設立数：28 地区（全 31 地区の 90%）
地域資源の活用を増やす （熱量） 目標 1,700GJ 当初 595GJ ⇒現状 1,513GJ （地場産食材） 目標 40.0% 当初 37.4% ⇒現状 32.9%	【循環型社会と、新たなライフスタイルの構築】 ●木質バイオマスエネルギー等の活用 ・再生可能エネルギー推進事業 ・薪ステーション「木材利用でエコな生活を」 ●地産地消推進による食の自給率向上 ・地場産農作物消費向上事業 ・農・福連携食材活用支援事業 ●南砺の農林水産業の維持と新たな挑戦 ・五箇山茅場の造成補助事業 ・「森の学校」の創設	・木質燃料の活用 〔ペレット、薪販売額〕4 年間で 6,730 万円 〔雇用創出〕4 年間で 5 人 ・農業と福祉の連携 〔福祉作業所売上額〕年間 760 万円（2 割増） 〔賃金〕1 割増 〔雇用創出〕4 年間で 3 人 ・市産茅の生産増 〔雇用創出〕4 年間で 3 人 〔販売額〕年間 170 万円
縮減公共施設の有効活用面積を増やす 目標 39,000 m ² 当初 0 m ² ⇒現状 3,977 m ²	【中小企業活性化、創造型産業構築】 ●公共施設再編計画の実現 ・公共施設再編後の施設を活用した企業誘致	

④文化・芸術・景観・ひとが紡ぐ交流のまち創造

(ひとに出会い、ひとと深くつながるまちを実現する)

基本目標	施策・主な事業	主な成果
社会動態を均衡にする （年間転入者数：増加） 目標 1,060 人 当初 1,012 人 ⇒現状 1,048 人 （年間転出者数：減少） 目標 1,200 人 当初 1,242 人 ⇒現状 1,189 人	【ひとと出会い、ひとを呼び込む】 ●移住定住施策の推進 ・定住促進雇用対策事業 ・定住支援事業 ・山村留学定住事業 ●市民がつながり、交流する仕組みづくりの支援 ・三世同居奨励金及び推進住宅改修等助成事業 ・ふるさと教育推進事業 ・南砺金沢線バス運行事業	・定住促進事業の奨励金による新規雇用者数：4 年間で 73 人 ・移住支援による移住者数：4 年間で 256 人 ・副業求人採用者数：4 年間で 49 人 ・山村留学制度参加者数：4 年間で 76 人
応援市民の人数を増やす 目標 800 人 当初 0 人 ⇒現状 726 人	【交流人口・貢献市民の拡大】 ●交流観光の推進 ・コンベンション支援事業 ・観光客受入環境整備事業 ●応援市民の拡大 ・応援市民登録制度 ・ふるさと寄附金の推進及びふるさと産品の拡大	・観光客入込数：354 万人（H26：325.6 万人） ・応援市民登録者数：726 人 ・ふるさと寄附：4 年間で延べ 2,796 件、7,428 万円
連携大学数を増やす 目標 6 大学 当初 0 大学 ⇒現状 6 大学	【大学、民間企業等との連携の推進】 ●高校、高専、大学、大学院、民間企業などとの連携の拡充 ・官学、官民連携事業	・官学連携による事業数：4 年間で 42 件

第5章 財政の見通し

ここでは、本市のまちづくりの指針である総合計画の主要事業のほか、通常事業を含めた全体の歳入歳出の均衡を図るとともに、令和2年度以降の財政上の転換期を勘案して、今後5年間の財政の見通しを予測します。

また、総合計画の着実な実現を図るとともに、第2次南砺市行政改革大綱及び行政改革実施計画や公共施設再編計画、定員適正化計画等に基づいて行財政改革を推進する中で、効率的かつ安定的な行政サービスを提供し、持続可能なまちづくりを目指します。本見通しについては、総合計画を財政的視点から補完することにより、計画の実効性を高め、健全かつ安定的な財政運営の指針とするものです。

歳入については、人口減少に伴い市税などの自主財源が減少するほか、合併特例期間の終了や地方交付税の一本算定により大幅に減少することが見込まれます。

一方、歳出については、さらなる少子高齢化の進展に伴い、福祉、保健、医療などの社会保障経費が増加するなど、財政負担がより一層大きくなることが予想されます。さらに、これまで整備してきた公共施設の老朽化に伴う大規模修繕などの多額の維持管理経費が見込まれます。

これらのことから、今後は身の丈に合った財政規模への転換を図っていく必要があります。

今後の財政運営については、世代間の負担の公平性に配慮した地方債の発行や目的に応じた基金の適正な活用により、限りある財源を効果的に活用しながら、市民サービスのあり方も含めたより一層の事業の選択と集中に努め、最小の経費で最大の効果が得られる健全で持続可能な財政運営に取り組んでいく必要があります。

グラフ作成中

※普通会計

都道府県や市区町村ごとに会計の区分が異なるため、比較ができるよう一定の基準で区分を整理した会計です。本市では、一般会計とバス事業特別会計を合わせたものとなっています。

※扶助費

社会保障制度の一環として、現金・物品を問わず、対象者に対して支給される経費です。生活保護法や児童福祉法、又は老人福祉法など、国の法律に基づいて支出する経費と、市が住民福祉の増進を図るため独自の施策において支出する経費があります。

※公債費

市が借り入れた地方債（借金）の返済に要する経費です。元利償還金と一時借入金の利息があり、人件費、扶助費とともに義務的経費の一つとなっています。

※普通建設事業費

道路、橋梁、学校、公園といった公共施設などの建設や用地取得に必要な経費です。

※財政力指数

標準的な行政費用に対する標準的な収入の割合を表し、市町村の財政力の強弱を示す数値として用いられます。この指数が“1”に近い（又は超える）ほど財政的に豊である（余裕がある）と言えます。

※経常収支比率

経常的な収入に対して、人件費や扶助費、公債費といった毎年必ず出て行くお金の割合がどのくらいになっているかを表し、市町村の財政構造の弾力性を判断するための指標です。

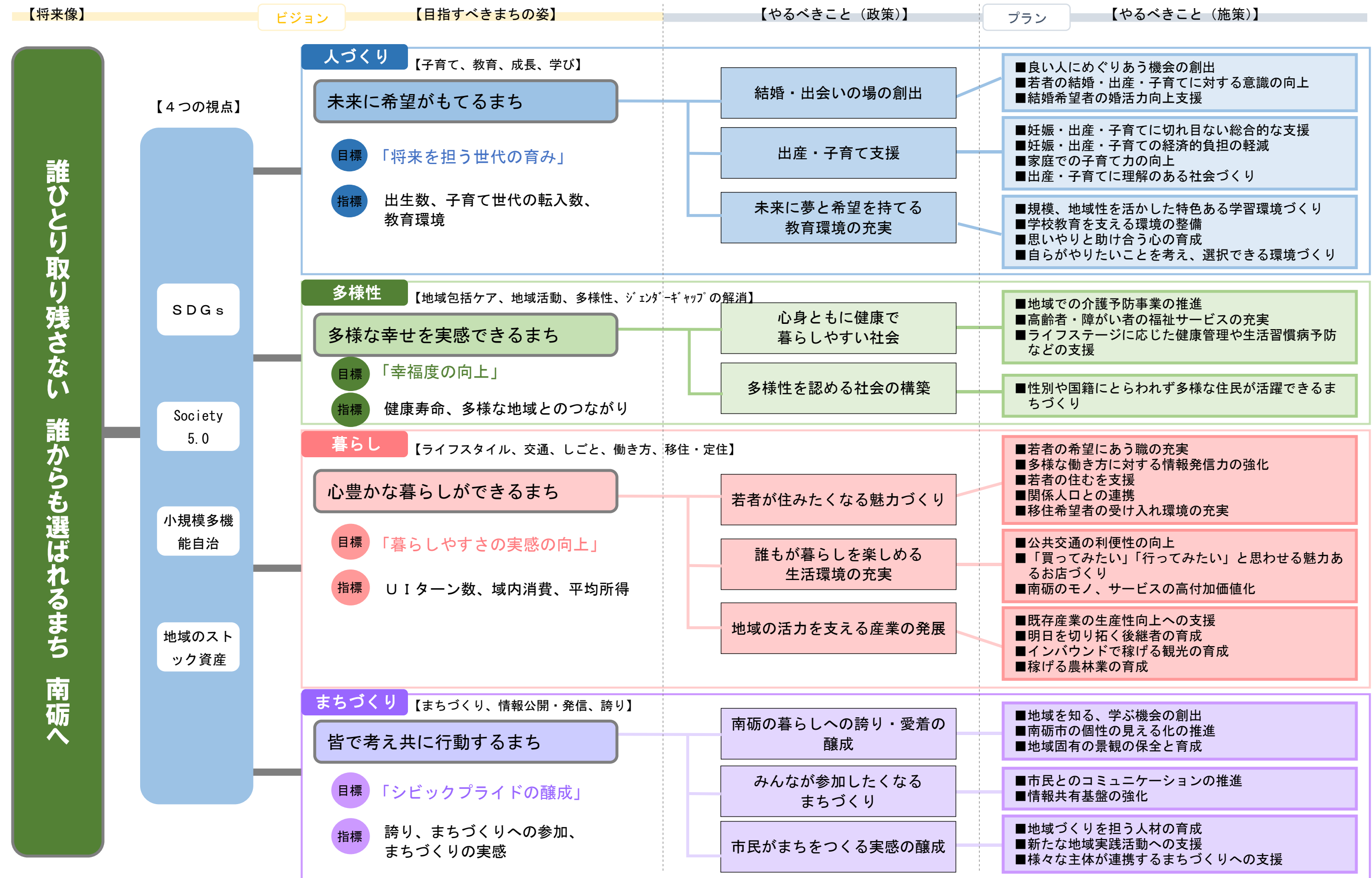
この値が大きくなればなるほど自由に使えるお金（新規の事業などを行う余裕）がなくなっていくことになります。

※実質公債費比率

標準財政規模（標準的な状態で通常収入される財源の規模）に占める、実質的な借金返済にかかる支出の割合を表します。通常、3年間の平均値で表します。18%以上だと、新たな借金をするために国や都道府県の許可が必要となり、25%以上だと借金をすることが制限されます。

第6章 施策の体系

1. 施策の体系



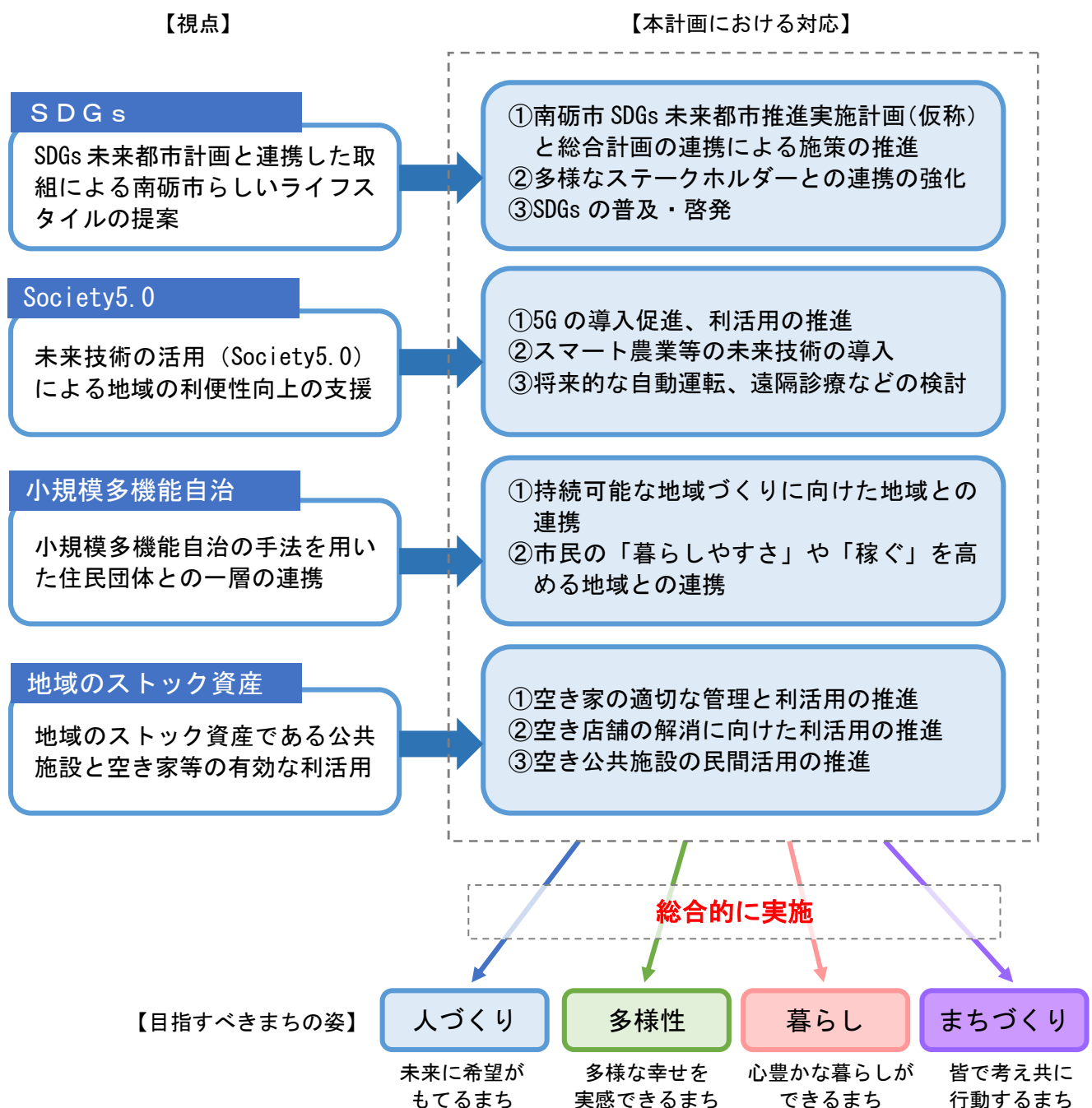
2. 時代の潮流に即した全分野に関わる4つの視点

(1) 4つの視点の考え方

時代の潮流におけるSDGsやSociety5.0、小規模多機能自治や地域のストック資産などについては、南砺市のビジョンを実現するために非常に重要な視点です。

これら4つの視点から導かれる対応策を、総合的に施策に反映していくことで、「人づくり」「多様性」「暮らし」「まちづくり」それぞれの実現を図っていくものとします。

(2) 4つの視点における方針



第7章 南砺まちづくりプラン

1. (人づくり) 未来に希望がもてるまち

①結婚・出会いの場の創出（素敵な結婚応援プロジェクト）

【現状と課題】

- ・ 適当な相手にめぐり合えない、多忙で時間的余裕がない等の理由による晩婚化・非婚化
- ・ 晩婚化・非婚化による出生数の減少

【今後の方針】

少子化の原因の一つである若者の非婚化や晩婚化に対して、若者の出会いの場の創出と、「結婚したい」と思える意識の醸成を図ります。

目標	子どもを増やす	指標	出生数、婚姻率、出生率
施策の内容 ● 良い人にめぐり合う機会の創出 ● 若者の結婚・出産・子育てに対する意識の向上 ● 結婚希望者の婚活力向上支援		やるべきこと（主な具体的事業） ・ あなたと私を結ぶ赤い糸プロジェクト ・ 婚活応援団なんとおせっ会プロジェクト ・ 早期結婚奨励事業 ・ 学童思春期保健事業	
KPI（個別の達成目標）		婚姻件数、平均初婚年齢	

②出産・子育て支援（子どもも親もにっこにこプロジェクト）

【現状と課題】

- ・初めての子育てに対する不安
- ・南砺市で出産するメリットが希薄
- ・出産、子育てにかかる経済的負担が大きい
- ・夫の子育てに対する意識の向上が必要
- ・仕事と家庭を両立できる働き方環境の充実
- ・地域のつながりの希薄化による地域における子育て環境の変化
- ・放課後でも子どもを見てもらえる環境が不十分

【今後の方針】

子どもが欲しいと願うすべての人の希望がかなうように、妊娠から出産・子育てまでの切れ目のない積極的な支援を行い、子育てが楽しい、子どもの成長が楽しみと思ってもらえる環境の充実に図ります。

目標	子育て世代を増やす	指標	子育て世代の転入数
施策の内容 ●妊娠・出産・子育てに切れ目ない総合的な支援 ●妊娠・出産・子育ての経済的負担の軽減 ●家庭での子育て力の向上 ●出産・子育てに理解のある社会づくり		やるべきこと（主な具体的事業） ・すこやか親子・母子保健相談事業 ・産後ケア事業、産前産後サポート事業 ・不妊治療費助成、不育症治療費助成、出産支援交通費助成 ・こども医療費助成、ひとり親家庭等医療費助成、妊産婦医療費助成 ・認可外保育施設に通う子どもにかかる利用料（保育料等）支援事業 ・高等学校通学費補助事業、入学卒業祝金事業 ・配慮が必要な子どもと家庭への支援 ・イクメン応援事業、働き方改革推進事業 ・子どもの居場所づくり促進事業	
KPI（個別の達成目標）		子育てしやすい環境と感じる割合、 働きながら子育てできる環境、男性の家事育児時間	

③未来に夢と希望を持てる教育環境の充実（未来を切り拓く南砺っ子プロジェクト）

【現状と課題】

- ・少子化に対応した活力ある教育環境の整備
- ・少子化に伴う、部活動等における子どもの選択肢の減少
- ・教育のICT化に向けた環境整備
- ・高校の統廃合による進学先に対する選択肢の減少と経済的負担等の増加

【今後の方針】

自身の夢をかなえることができる、また、地域を支え、地域に大きく貢献できる人材を育てるために、思いやりと助け合う心の育成及び生きていく力を身に付けることができる教育の充実や、「学ぶことが楽しい」と思える、ステージに応じた教育環境の充実を図ります。

目標	小中学校の児童生徒数を増やす	指標	教育環境の充実度
施策の内容 ●規模、地域性を活かした特色ある学習環境づくり ●学校教育を支える環境の整備 ●思いやりと助け合う心の育成 ●自らがやりたいことを考え、選択できる環境づくり		やるべきこと（主な具体的事業） ・井口地域義務教育学校整備事業 ・学校間をつなぐ遠隔協働学習 ・長期山村留学事業 ・小中学校ICT機器整備事業 ・ふるさと教育の充実 ・外国人児童生徒支援事業 ・中学校部活動支援事業 ・なんと元気っ子教室事業 ・地域クラブ活動支援事業	
KPI（個別の達成目標）		全国学力調査の県平均を上回る教科数、 県以上のレベルの大会での入賞者数、 自分には良い所があると回答した児童生徒の割合	

2. (多様性) 多様な幸せを実感できるまち

①心身ともに健康で暮らしやすい社会（いつまでも元気で活躍プロジェクト）

【現状と課題】

- ・地域での介護予防事業の推進が必要
- ・人間ドックの費用負担が高額なイメージがあり受診が敬遠される
- ・若年層における健康診断の受診率が低く、将来的な受診率低下が懸念される

【今後の方針】

いつまでも健やかに、安心して生活できるように、高齢者福祉の充実と医療体制の確保を図ります。また、スポーツなど、日常的な運動習慣の醸成により、健康の維持と増進を図ります。

目標	健康寿命を延ばす	指標	健康寿命
施策の内容 ●地域での介護予防事業の推進 ●高齢者・障がい者の福祉サービスの充実 ●ライフステージに応じた健康管理や生活習慣病予防などの支援		やるべきこと（主な具体的事業） ・介護予防・日常生活支援活動拠点施設改修及び備品等整備事業 ・通所型サービスB事業 ・訪問型サービスB事業 ・介護人材雇用型訓練事業 ・フレイル予防事業 ・外国人受入体制整備事業 ・新40歳人間ドック受診促進事業 ・学生健診事業の実施	
K P I（個別の達成目標）		介護予防活動への参加率、日頃から運動する人の割合	

②多様性を認める社会の構築（誰もが認めあえる社会形成プロジェクト）

【現状と課題】

- ・外国人の定住や来訪が近年増加してきている
- ・性別や国籍にとらわれず多様な住民が活躍できるまちづくりが必要

【今後の方針】

年齢や性別、国籍や文化、障がいの有無も関係なく、様々な生き方や考え方などの多様性を認め、共に生活し、活躍していくことができる、分け隔てない社会の構築を図ります。

目標	地域の人との交流を充実させる	指標	地域とのつながりを実感する市民の割合
----	----------------	----	--------------------

施策の内容	やるべきこと（主な具体的事業）
●性別や国籍にとらわれず多様な住民が活躍できるまちづくり	検討中

KPI（個別の達成目標）	地域に居場所があると感じる割合、 生きづらいと感じる人の割合、外国人の人口
--------------	--

3.（暮らし）心豊かな暮らしができるまち

①若者が住みたくなる魅力づくり（若者が住みたくなる魅力UPプロジェクト）

【現状と課題】

- ・市内企業の魅力が知られていない
- ・大学進学で地域とのつながりがなくなる
- ・転出した若者層を就職等で呼び戻すことが必要
- ・南砺を「選ぶ」「戻る」という動機付けが必要

【今後の方針】

次代の南砺市を担う若者が、確実に南砺市に定住してもらえるよう、定住促進や若者が集える場の確保などによる流出抑制とともに、南砺市の魅力の発信と交流活動の積極的な展開により、交流人口と関係人口の増加を目指します。

目標

若者のU I ターンを増やす

指標

U I ターン数、転入数、転出数

施策の内容	やるべきこと（主な具体的事業）
●若者の希望にあう職の充実 ●多様な働き方に対する情報発信力の強化 ●若者の住むを支援 ●関係人口との連携 ●移住希望者の受け入れ環境の充実	・起業家育成支援事業 ・クリエイティブ産業振興・発信事業 ・企業魅力発信事業 ・定住促進雇用対策事業 ・定住支援事業補助金、定住奨励金 ・転入等世帯リフォーム助成金 ・空き家バンク活用促進事業 ・移住コンシェルジュ事業 ・移住コーディネート事業

K P I（個別の達成目標）

新規雇用者数、住宅着工件数、貢献活動数

②誰もが暮らしを楽しめる生活環境の充実（暮らしを楽しめるまち創造プロジェクト）

【現状と課題】

- ・市内での購買意欲の低さ
- ・市内での経済循環
- ・高齢者や中高生の移動手段の確保
- ・魅力ある商品や店舗の充実

【今後の方針】

便利な公共交通の充実や魅力ある商店・商品づくりや、ＩｏＴなどの活用による生活利便性の向上など、出かけたくなる、暮らしやすい快適で便利なまちづくりを進めます。

目標	市内での消費額を増やす	指標	域内消費額
施策の内容 ●公共交通の利便性の向上 ●「買ってみたい」「行ってみたい」と思わせる魅力あるお店づくり ●南砺のモノ、サービスの高付加価値化		やるべきこと（主な具体的事業） ・地元住民による交通（移動）サービス ・公共交通のキャッシュレス決済 ・公共交通の自動運転技術導入 ・小規模事業者後継者育成事業 ・クリエイティブ産業振興・発信事業 ・南砺ブランド商品開発支援事業	
K P I（個別の達成目標）		商業年間商品販売額、公共交通利用者数	

③地域の活力を支える産業の発展（地域の活力を支える産業育成プロジェクト）

【現状と課題】

- ・農林業従事者の減少・高齢化、後継者不足
- ・市内観光消費額の向上、広域での観光振興
- ・魅力ある観光コンテンツの充実や開発
- ・外国人観光客対応の環境整備

【今後の方針】

南砺市が将来においても活力と魅力を維持し、市民や企業が安定した収入を得られ、地域が持続的に発展していくために、産業の振興や南砺市の地域資源の活用、科学技術の積極的な導入などを図ります。

目標	市民の所得を増やす	指標	平均所得
施策の内容 ●既存産業の生産性向上への支援 ●明日を切り拓く後継者の育成 ●インバウンドで稼げる観光の育成 ●稼げる農林業の育成		やるべきこと（主な具体的事業） ・企業立地奨励事業 ・小規模事業者後継者支援事業 ・伝統的工芸品後継者育成支援事業 ・世界遺産等の多言語解説の整備 ・観光地 Wi-Fi 環境整備事業 ・観光客受入環境整備事業（多言語化） ・宿泊施設立地促進助成事業 ・アニメツーリズム拠点整備事業 ・合掌の里リノベーション事業 ・南砺金沢線活用誘客促進事業 ・なんと自然給食ものがたり ・森林整備地域活動支援交付金事業	
K P I（個別の達成目標）		製造品出荷額、延べ宿泊者数、農業産出額、林業産出額	

4.（まちづくり）皆で考え共に行動するまち

①南砺の暮らしへの誇り・愛着の醸成（南砺大好き市民を増やそうプロジェクト）

【現状と課題】

- ・南砺の魅力を市民や他地域の人が十分に認知していない
- ・南砺の伝統や魅力を知ることができる場の創出
- ・魅力ある景観の保全・継承

【今後の方針】

南砺市を選んでもらい、そしていつまでも住み続けてもらうために、地域の魅力を知り、学ぶ機会を創出し、また地域住民の郷土愛の醸成を図ります。また、地域固有の景観や文化を保全・継承し、わがまちを誇りに思うことができる地域づくりを進めます。

目標	南砺市に誇りや愛着を感じる人を増やす	指標	南砺市や地域に誇りや愛着を感じる割合
-----------	--------------------	-----------	--------------------

施策の内容	やるべきこと（主な具体的事業）
●地域を知る、学ぶ機会の創出 ●南砺市の個性の見える化の推進 ●地域固有の景観の保全と育成	・ふるさと教育の充実 ・次世代に向けたエコビレッジ構想の普及啓蒙活動の充実 ・世界遺産五箇山検定（愛着、誇りの再認識、魅力発信人材育成）

KPI（個別の達成目標）	自信をもって紹介できる文化や景観がある市民の割合、住み続けたいと思う市民の割合
---------------------	---

②みんなが参加したくなるまちづくり（みんなでまちを考える気運創出プロジェクト）

【現状と課題】

- ・市民ニーズに適合したまちづくりへの支援
- ・市民と行政のコミュニケーションの場の充実

【今後の方針】

まちづくりや地域づくりにもっと関心をもってもらい、まちづくりのアイデアを様々な人から募るために、市民と行政の接点となる機会を積極的に創出し、まちづくり情報の共有と参加者の増加を図ります。

目標	まちづくりに参加する人を増やす	指標	まちづくりに参加している市民の割合
----	-----------------	----	-------------------

施策の内容	やるべきこと（主な具体的事業）
●市民とのコミュニケーションの推進 ●情報共有基盤の強化	・オープンデータ化の推進、情報公開 ・ホームページの拡充 ・地域住民主体のまちづくり拠点施設整備事業 ・地域住民主体のまちづくり活動支援事業 ・なんと未来創造塾開催事業 ・小規模多機能自治推進セミナー ・課題解決型市民協働促進事業

KPI（個別の達成目標）	公聴広報活動への参加者数、公募委員応募数
--------------	----------------------

③市民がまちをつくる実感の醸成（みんなのみんなによるまちづくりプロジェクト）

【現状と課題】

- ・地域活動を推進するための情報・資金・人材の不足
- ・地域活動の拠点となる場所・施設の確保
- ・活動に関する情報の共有や地域間連携

【今後の方針】

「我々のまちは、我々がつくり、我々が守り育てる」と考える、地域づくりを担う人材を育成するために、小規模多機能自治の考え方のもと、地域活動への支援や人材育成支援を積極的に図ります。

目標	自分の地域は自分たちで良くする事ができると考える人を増やす	指標	自らまちづくりに取り組む割合
----	-------------------------------	----	----------------

施策の内容	やるべきこと（主な具体的事業）
●地域づくりを担う人材の育成 ●新たな地域実践活動への支援 ●様々な主体が連携するまちづくりへの支援	・住民自治（小規模多機能自治）の推進 ・各地区取り組み発表会 ・なんと未来支援センターとの連携 ・地域円卓会議 ・空き家対策連絡協議会

K P I（個別の達成目標）	地域づくりを担う人材の育成、 新たな地域実践活動への支援、 様々な主体が連携するまちづくりへの支援
----------------	---